

恭賀新春

おてら



築地本願寺 (東京都中央区)

常例十六日講
毎月16日午後1時より
お経練習・法話会

信教の自由

住職 蒲原 霊英

香港では、昨年の逃亡犯条例改正案に反対するデモが発端となり、反政府・民主化デモが続いており、香港人達は自由と民主主義を守る為に命懸けで戦っています。そして、一月十一日には、台湾では総統選挙が行われます。香港のデモが起きるまでは、親中派の国民党が優位でしたが、デモを力尽くで鎮圧しようとする中国共産党・中国共産党の恐ろしさを目の当たりにして、「今日の香港、明日の台湾」のスローガンの下、中国に對峙し台湾を守る姿勢の現政権・民進党が一気に優位になり、現職の蔡英文総統の再選が濃厚です。これらの一連の動きは対岸の火事ではありません。「明後日の沖繩、明後日の日本全土」と、中国の脅威はすぐそこまで来ています。

中国共産党に支配されたらどうなるか。もちろん、言論・表現の自由はありません。そして、信教の自由もありません。例えば、浄光寺は接収され、土地開発の為、墓場も全部掘り起こされて御骨も適当に処分されます。各家のお仏壇も撤去・処分し、仏様に手を合わせる事も念仏を称える事も禁止されます。もちろん、神社も破却され、初詣や七五三やお宮参りもできません。日頃、日本人はこれらの行為を宗教的行為だとは思っていない人が多いようで、特定の宗教を信仰しているとか信仰心があると答える人は三割程です。しかし、中国共産党からすると、これらの行為は立派な宗教的行為であり、信教の自由が認められない体制では禁止・弾圧されてしまいます。宗教的行為だと疑いを持たれただけで、すぐさま次から次へと強制収容所に送られます。そして、健康な人の臓器は世界の富裕層に売られ、空港には専用のゲートも設けられます。

「そんなバカな」と思われるかもしれませんが、チベット(仏教徒)やウイグル(イスラム教徒)では、これらの事が今この瞬間にも行われています。チベットやウイグルの方々が命懸けで訴えているのに、日本では中国に付度して報道されています。アメリカでは、先日「ウイグル人権法案」が下院で可決し、トランプ大統領が署名すれば成立します。これに先立ち、香港の民主化運動を擁護する「香港人権・民主主義法」も成立しました。一方、情けないことに、日本では議会も中国に付度して、そのような動きは一切ありません。仏様となった亡き人を想いつつ、苦悩しながらもこの娑婆に生かされているご縁に感謝して手を合わす。こんな当たり前のことができない有り難さや当たり前の日常を送ることができるとは、一人一人が、今、何を思い何をすべきかを真剣に考えてみてはいかががでしょうか。

合掌

慶讃法要趣意書

門主 大谷 光淳

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要
を、令和五年にお勤め致します。

物事を自己中心的にしか考えられない私たちがこの世を生
きることは苦悩そのものです。その苦悩を超えて生きていく
道を教えてくださるのが仏法です。阿弥陀仏は私たちに、「ど
んなに孤独で苦しく悲しくとも、私はあなた方一人ひとりを、
そのままに受け止めて、決して見放さない」との救いのメッ
セージを「南無阿弥陀仏」という御名に込めて、よび続けて
おられます。そのメッセージをそのままに領き受け止めるこ
とが、私たちに届けられた真実信心となり、どのような状況
に置かれようと揺らぐことのない尊い安心を頂くことにな
るのであります。それこそが、様々な苦悩にも向き合って生きるこ
とのできる依りどころとなりましょう。そういう阿弥陀仏か
ら頂いている御恩への感謝の言葉がお念仏であり、その救い
の在り方を、念仏者の生き方として私たちに分かりやすく、
しかも体系立てて説き示してくださいましたということが、浄土
真宗にとつて親鸞聖人による「立教開宗」の意義であります。

現代社会は、社会・国家レベルでは自国の経済や文化を優
先する排他的で閉鎖的な在り方が優勢となり、それにより国
際的に様々な対立や紛争が起こっています。また個人レベル
では、自己努力と自己責任という名目のもとに、共に生きる
という価値観が薄らぎ、孤独・孤立が深刻な問題となってい
ます。このような状況の中、今こそ、「自他共に心豊かに生
きることでできる社会の実現」を理念とし、仏道の基本を踏
まえて人々と共に歩む私たちが念仏者の果たすべき使命は、か
げがえのない、大変に重いものです。

今回の慶讃法要に向けて、「世のなか安穏なれ、仏法ひろま
れ」との親鸞聖人のお言葉を胸に、地道にその役割を果たす
べく、精一杯精進してまいります。

合掌

築地本願寺でカフェごはん



「18品の朝ごはん」(110食限定)
小鉢の下紙には料理名が書いてあり、築地の名店の食材が使用されていることが分かります。

築地本願寺(東京都)は
創建四百年の本願寺派寺院
で、現在の本堂は1934
(昭和9)年築。帝国大学
名誉教授で建築史家の
伊東忠太博士の設計による、
古代インド仏教様式を模し
た外観やステンドグラス、
動物の彫刻等が特徴的です。
2年前敷地内にオープン
した「カフェTsumugi(つむ
ぎ)」が評判です。特に「18
品の朝ごはん」が好評で、
毎朝数十名の人が開店前か
ら行列を作るほどの人気ぶ
り。お粥と味噌汁に、16種
類のおかず。添えられたカ
ードには「18 仏様の願い
とは？」とあり、裏面には、



阿弥陀如来の四十八願の十
八番目、「あなたを決して見
捨てない。必ず救う」とい
う誓願に因んだことが記さ
れています。この第十八願
が最も重要な誓願で、根本
の願い(本願)です。
今までお寺とご縁の無か
った方々にも、こうした形
からでも、仏様の教えに触
れるご縁を持つていただけ
ると嬉しいのです。東京へお
出かけの際には、是非ご参拝
いただき、カフェでゆっくり
りとおくつろぎください。